

## 全日本東西対抗 剣道大会に出場して

早田 千広



令和三年九月五日、大分県大分市（昭和電工武道スポーツセンター）にて第六十七回全日本東西対抗剣道大会が開催され、東軍十八将として出場させていただきました。

このような長い歴史を有し、日本剣道界最高峰の一つである本大会に出場させていただき、この上ない喜びであり、関係者の皆様には厚く御礼申し上げます。

今年にはコロナ禍による暫定ルールで、五分間の三本勝負とされ、時間内に勝敗が決しない場合は、三分ずつ区切り、延長三回で決まらなければ五分の休憩を挟むというルールのもとに実施されました。大会にあたり意識した事は、勝負は二の次、正々堂々と、まずは自分から積極的に攻め、自分の剣道を全部出し切る事を心掛け試合に臨みました。

対戦相手は、和歌山県の木原先生で、全日本選手権でも活躍し、上位入賞経験のある選手です。

試合が始まり三十秒あたりで木原選手の面を体捌きでかわしたところで、右足ふくらはぎからドンという音が…まさか

の肉離れでした。タイムを掛け足を伸ばしますが、右足の激痛により立つ事が出来ません。

棄権する事も言われ自分でも悩みましたが、こんな大舞台で棄権したら一生悔いが残ると思いますし、相手選手にも申し訳ないという気持ちもあり、最後までやり切るといふ思いで続行する決意をしました。試合の方は、残り時間十秒を切った所で、木原選手の裏からのツキが決まり、そこで時間となりました。

結果として、自分の剣道を全部出し切るといふ思いとは正反対となっていました。五分間最後まで試合が出来た事は、自分の氣力を最大限に発揮できたと思います。

今回の大会を経験できた事は、アクションを含め、これからの剣道人生の糧になると思います。今後も更に上を目指し精進してまいります。これからもご指導のほど宜しくお願い致します。

## 全日本選手権に出場して

杉田 龍太郎



令和三年十一月三日、日本武道館において開催された第六十九回全日本剣道選手権大会に出場させていただきました。

日本武道館での開催は久々ということですが、張り詰めた空気と、独特の緊張感が漂っていました。私は、二回目の出場だったので、前回大会での教訓を胸に、さらに挑戦者として思い切りの良い試合をしようという思いで挑みました。

一回戦の相手は、京都府代表の合屋龍選手でした。合屋選手は、私が在学している鹿屋体育大学出身の先輩で京都府警察でも活躍されている素晴らしい選手です。私は、合屋選手の独特な構えと豪快な技を警戒しながら試合をしました。

新型コロナウイルスの影響で、警察官の方々の訓練が再開し十分に稽古ができていない状況のせいか、合屋選手の動きが少し硬い感じがしました。試合序盤から飛び込み面、小手、引き面と積極的に技を出していききましたが、なかなか決め切ることができず延長戦になりました。そして、二回目の延長戦に入ったところで、さらに勝負を仕掛けにきました。しかし、気負いすぎたのか、気が付くと私はコート角に立った状態となり、その矢先思わず反応したところに出小手を拾われてしまいました。勝てると思った慢心が一瞬の隙につながったのだと思います。

今大会は、鹿児島県代表の星子選手が初優勝を果たしました。

私は学生で、しかも一年間の中で、二回も全日本選手権に出場させていただけ貴重な経験をする事ができました。この経験を活かし、感謝の気持ち忘れず日々精進していきたいと思えます。

## 第六十回全日本女子 剣道選手権に出場して

伊藤 美沙



令和三年九月十九日、奈良県のジェイテクトアリーナで開催された第六十回全日本女子剣道選手権大会に出場させていただきました。

一試合目の相手は滋賀県の八木選手でした。初めて対戦する相手でしたがしっかりと自分のペースで試合をしていこうと思いましたが、結果は負けてしまいました。反省・課題のみつかる試合となりました。全日本選手権という夢の舞台で試合ができたことは私自身とてもいい経験になり、また新たに目標ができました。コロナ禍で稽古を充分にできませんでした。今大会を通して学んだこと、感じたことを今後の稽古に活かし、さらなる高みを目指して精進していきます。今後ともご指導の程宜しくお願い致します。

